

令和元年度 第10回 直江津区地域協議会

次 第

日時：令和元年12月17日（火）18:00 - 19:00

会場：レインボーセンター 多目的ホール

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 開 会 | 18:00 - 18:02 |
| 2 会長あいさつ | 18:02 - 18:05 |
| 3 議 題 | |
| 【報告事項】 | 18:05 - 18:15 |
| ・地域協議会会長会議について | |
| 【自主的審議事項】 | 18:15 - 18:55 |
| ・直江津まちづくり構想について | |
| 4 その他 | 18:55 - 19:00 |
| ・公立保育園の民間移管について | |
| 5 閉 会 | |

地域協議会会長会議 次第

と き 令和元年11月6日(水)
午後3時30分～

ところ 直江津学びの交流館
イベントホール

1 開会

2 あいさつ

3 連絡事項

- (1) 令和2年度 地域協議会委員改選について … 資料1
- (2) 令和2年度 地域活動支援事業の概要について … 資料2
- (3) 町内会宛て事務文書の配布見直しに係る地域協議会だよりの取扱いについて … 資料3
- (4) 地域協議会の見直しに関する検討について

4 意見交換

… 意見交換 実施シート

《テーマ》

- ①地域との意見交換等を通じて把握した地域課題の自主的審議へのつなげ方について
- ②地域協議会と地域の団体等との連携・協力の促進について
 - * 2グループに分かれての意見交換
 - * 意見交換終了後、その内容を全体へ報告

5 閉会

令和2年度 地域協議会委員改選について

1. 委員の任期

令和2年4月29日から令和6年4月28日まで

2. 委員の定数（案）

平成27年度に設けた人口を基礎とした全市統一の基準^{（※別紙参照）}に基づき、委員の定数を次のとおり変更するための条例案を市議会12月定例会に提案します。

地域協議会	改選後	増減	地域協議会	改選後	増減
高田区地域協議会	20人		安塚区地域協議会	12人	
新道区地域協議会	14人		浦川原区地域協議会	12人	
金谷区地域協議会	16人		大島区地域協議会	12人	
春日区地域協議会	20人		牧区地域協議会	12人	
諏訪区地域協議会	12人		柿崎区地域協議会	14人	△2人
津有区地域協議会 [※]	12人	△2人	大潟区地域協議会 [※]	14人	△2人
三郷区地域協議会	12人		頸城区地域協議会 [※]	14人	△2人
和田区地域協議会	14人		吉川区地域協議会 [※]	12人	△2人
高土区地域協議会	12人		中郷区地域協議会	12人	
直江津区地域協議会	18人		板倉区地域協議会	14人	
有田区地域協議会	18人	+2人	清里区地域協議会	12人	
八千浦区地域協議会	12人		三和区地域協議会	14人	
保倉区地域協議会	12人		名立区地域協議会	12人	
北諏訪区地域協議会	12人				
谷浜・桑取区地域協議会	12人		合 計	382人	△8人

・※印を付した地域協議会は、令和2年4月28日までの経過措置により、基準に基づく委員定数より2人増としている。

3. 今後の主な予定

（令和2年）

※ 今後変更となる場合があります。

2月 上旬 公募の告示

2月中旬から3月上旬 各地域協議会において活動報告会を開催

3月上旬から下旬 公募期間

4月26日 選任投票（定数超過の地域協議会のみ）

4月28日 現職の任期満了

4月29日 新委員の任期開始

5月 前半 任命書交付式及び全体研修会

5月 後半 委員改選後最初の地域協議会を開催

【参考】地域自治区ごとの人口

地域自治区	(ア)		(イ)		【単位：人】
	令和元年 9月30日人口	委員定数 (R2改選)	平成27年 9月30日人口	委員定数 (現職)	人口増減 (ア)－(イ)
高田区	27,675	20	29,113	20	△1,438
新道区	9,161	14	9,305	14	△144
金谷区	13,950	16	14,481	16	△531
春日区	20,963	20	20,470	20	493
諏訪区	943	12	1,043	12	△100
津有区	4,772	12	4,998	*14	△226
三郷区	1,330	12	1,422	12	△92
和田区	5,953	14	5,766	14	187
高士区	1,419	12	1,502	12	△83
直江津区	18,294	18	18,873	18	△579
有田区	15,242	18	14,838	16	404
八千浦区	3,881	12	4,080	12	△199
保倉区	2,072	12	2,235	12	△163
北諏訪区	1,501	12	1,598	12	△97
谷浜・桑取区	1,517	12	1,709	12	△192
安塚区	2,223	12	2,601	12	△378
浦川原区	3,248	12	3,508	12	△260
大島区	1,453	12	1,711	12	△258
牧区	1,776	12	2,049	12	△273
柿崎区	9,369	14	10,157	16	△788
大潟区	9,197	14	9,668	*16	△471
頸城区	9,151	14	9,454	*16	△303
吉川区	4,006	12	4,440	*14	△434
中郷区	3,603	12	4,025	12	△422
板倉区	6,621	14	7,114	14	△493
清里区	2,618	12	2,888	12	△270
三和区	5,460	14	5,836	14	△376
名立区	2,500	12	2,738	12	△238
合計	189,898	382	197,622	390	△7,724

- ・※印を付した地域協議会は、令和2年4月28日までの経過措置により、基準に基づく委員定数より2人増としている。
- ・人口は、各日現在の住民基本台帳データ（外国人除く）による。

※本資料は、平成 27 年 7 月から 9 月に各地域協議会へ説明及び意見交換を行った際の資料のうち、委員定数に関する部分を抜粋したものです。

上越市地域協議会の一層の活性化に向けた見直しについて (案)

平成 25 年度から 2 か年にわたり、上越市地域協議会検証会議を設置し、地域協議会の一層の活性化に向けた検証を行いました。

検証会議からは、自主的審議の活性化や人口減少に応じた委員定数の見直しなど、地域協議会の活性化に向けた様々なご意見をいただいたところです。

市では、これらのご意見やこれまでの制度の運用状況等を踏まえ、身近な地域の課題について議論し、地域の意見を取りまとめ、市政に反映させる地域協議会の役割をより一層発揮するため、制度や運用の一部を見直すものです。

(略)

2 見直しの内容

(2) 委員定数基準の見直し

現在、13 区と 15 区で異なる基準により定められている委員定数を、人口減少の現実を鑑み、全区統一の人口に基づく定数基準とします。

①定数の基準

- ・最少の定数は、会議体として必要な人員を確保する必要があることを踏まえるとともに、改正前の地方自治法に定められていた人口 2,000 人未満の町村の議会の議員の上限定数を参考に、12 人とする。(現行のまま)
- ・最多の定数は、会議体として一つの結論を導き出す必要があることを踏まえ、円滑な審議が可能な人数等を考慮して 20 人とする。(現行のまま)
- ・最少 (12 人) と最多 (20 人) の人数の範囲で、人口 5,000 人毎に均等に定員 2 人を割り振る。(変更点)

人口	新基準(案)	現 15 区基準	現 13 区基準	改正前自治法 の上限定数
2,000 人未満	12 人	12 人	12 人～14 人	12 人
2,000 人以上 5,000 人未満				14 人
5,000 人以上 10,000 人未満	14 人	16 人	16 人～18 人	18 人
10,000 人以上 15,000 人未満	16 人	18 人	18 人	22 人
15,000 人以上 20,000 人未満	18 人		—	
20,000 人以上	20 人	20 人	—	26 人

②各区の定数

地域自治区名	人口	現行定数	改正案	現行との差
高田区	29,276人	20人	20人	
新道区	9,248人	16人	14人	△2人
金谷区	14,475人	18人	16人	△2人
春日区	20,376人	18人	20人	2人
諏訪区	1,050人	12人	12人	
津有区	4,991人	16人	12人	△4人
三郷区	1,405人	12人	12人	
和田区	5,744人	16人	14人	△2人
高士区	1,503人	12人	12人	
直江津区	18,890人	18人	18人	
有田区	14,804人	18人	16人	△2人
八千浦区	4,067人	12人	12人	
保倉区	2,229人	12人	12人	
北諏訪区	1,599人	12人	12人	
谷浜・桑取区	1,713人	12人	12人	
安塚区	2,653人	12人	12人	
浦川原区	3,549人	12人	12人	
大島区	1,733人	12人	12人	
牧区	2,097人	14人	12人	△2人
柿崎区	10,233人	18人	16人	△2人
大潟区	9,705人	18人	14人	△4人
頸城区	9,474人	18人	14人	△4人
吉川区	4,477人	16人	12人	△4人
中郷区	4,065人	14人	12人	△2人
板倉区	7,164人	16人	14人	△2人
清里区	2,900人	12人	12人	
三和区	5,867人	16人	14人	△2人
名立区	2,752人	14人	12人	△2人
合計	198,039人	416人	382人	△34人

※人口は、平成27年4月30日現在の住民基本台帳データ（外国人除く）による。

ただし、正式な定数は、改選の前年の9月30日現在の住民基本台帳データを使用する。

③激変緩和措置（会長会議を受けた変更点）

基準の見直しにより定数が4人減となる区については、次の任期の間（平成28年4月29日～平成32年4月28日）のみ現行から2人減とする特例を認めます。

(略)

令和 2 年度地域活動支援事業案の概要

※令和 2 年度の地域活動支援事業の概要は、令和元年度と同じ予定である。

※本事業案の概要は、令和 2 年市議会 3 月定例会での新年度予算の成立を前提としたものであり、審議結果により変更となる場合がある。

1 趣旨 (1) 目的 (2) 運用方針 (3) 審査体制 2 各区への配分額 (1) 総事業費 (2) 配分額 (3) 残額の取扱い 3 今後の主なスケジュール 4 事業の概要	(1) 実施方法 (2) 対象事業 (3) 対象経費 (4) 補助率・限度額の設定 5 事業の実施手順等 (1) 採択方針の取扱い (2) 事業提案書の受付 (3) 提案事業の審査 (4) 事業の紹介・公表
--	--

1 趣旨

(1) 目的・背景

- 資金の使い道を考えることを通じて、市民の皆さんが、自治とは何か、地域の豊かさ、地域づくりとは何かということに思いを巡らせ、自らの発意を行動に移していく、こうした市民主体のまちづくりを進めていく契機としていく。

(参考) 地域自治区制度は、市民が地域の課題を主体的にとらえ、議論を行い、決定した意見を市政に反映させていくための仕組みであるとともに、身近な地域の課題解決に向けて自主的・自発的な地域活動をより活発なものとしていくための仕組みであることから、制度の実効性を高めていく手法として、本事業を制度化したもの。

(2) 運用方針

- 地域の住民が自ら考え、地域の課題解決や活力向上のために必要とする事業について極力制限を加えることなく活用できるよう、全市的な規制を最小限に抑え、できる限り地域の裁量に委ねる。

(3) 審査

- 住民の生活実感を踏まえた議論を経て、地域にとって真に必要な提案事業を採択することは、地域の課題解決に向けた地域協議会の役割にかなう活動であることから、各区の「採択方針の決定」と「審査」は、引き続き各地域協議会に委ねることとする。
- 各地域協議会においては、提案事業の審査を通じて、地域の活動団体の状況や地域の課題の把握にも努め、自主的審議の一層の活性化につなげていただきたい。また、審査に当たっては、地域の活力向上や課題解決に対する効果、提案団体の自立の観点について改めて十分な審議をいただき、本事業の更なる効果的な活用につなげていただきたい。

2 各区への配分額

(1) 総事業費

1 億 8,000 万円

(2) 配分額

均等割 1 億 2,600 万円 (450 万円×28 区) + 人口割 5,400 万円

均等割 7 : 人口割 3

※各区の配分額については 2 月下旬の新年度予算案公表に併せて公表。

(3) 残額の取扱い

- 追加募集を行うかどうかは、各地域協議会の判断に委ねることとする。
- 配分額の残額は、翌年度に加算しない。

3 今後の主なスケジュール

～2 月中旬	各地域協議会において採択方針、募集期間等を決定
2 月下旬	新年度予算案の公表、制度の概要案の公表
3 月～	新年度の募集に向けた相談の受付 (たより・説明会・個別相談)
4 月 1 日～	事業の募集開始 (募集期間は地域自治区により異なる)
募集終了後	各地域協議会での審査
審査終了後	採択事業の決定、公表
採択決定後	補助金の交付決定、事業の実施

※事業提案書の提出日以降の事前着手は認めることとする。

4 事業の概要

(1) 実施方法

- 「市が行う事業」は対象としない
※ ただし、部活動として使用することが主となる資機材の整備、活動経費については「市が行う事業」とはならない。
- 事業の内容
・団体等が、主体的に取り組む事業に対し、市が補助金を交付
- 事業を提案できる方
・5 人以上で構成し、市内で活動する法人又は団体 (政治や宗教活動を目的とする法人又は営利法人を除く)

(2) 対象事業

- 「身近な地域における課題の解決を図り、それぞれの地域の活力を向上するため、市民の皆さんが自発的・主体的に行う地域活動」を対象とする。
ただし、次のものは対象外とする。
 - ・物品の購入や施設等の整備・修繕のみを目的とした、活動を伴わない事業
 - ・政治活動・宗教活動を目的とする事業
 - ・公序良俗に反する事業
 - ・国・県・市の他の補助制度と重複して助成を受けようとする事業
 - ・市に大規模な施設の設置や開発を求めるために行う事業
 - ・行政サービスの提供や公共施設の整備等を市に求める事業

(3) 対象経費

- 事業の目的を達成するために直接必要な経費を補助する。

ただし、次に掲げる経費は補助の対象外とする。

- ・応募や実績報告などに要する事務的な経費（提出資料のコピー代や郵送代、等）
- ・応募団体等の運営（人件費、事務所の家賃等）に要する経費
- ・応募団体の人が飲食を行う経費（弁当代やイベント終了後に行う懇談会の食事代等。ただし、作業に参加した人へのお茶代・菓子代は対象とする。）
- ・会議の時のお茶代・菓子代
- ・金券（商品券、サービス券）などの発行に係る経費（個人の私的な資産形成に当たるものと捉えられることから対象外とする。）
- ・その他対象とすることが適当でないと市長が認めた経費

（４）補助率・限度額（上限・下限）の設定

- 住民の発意を大切に、主体的な活動をより広く展開していくことを期待する趣旨から、資金調達に障害とならないよう、補助金交付額の上（下）限及び補助率（最大で10/10以内）の設定は、地域の実情を踏まえて、各地域協議会の判断に委ねる。

5 事業の実施手順等

（１）採択方針の取扱い

- 各区の採択方針は地域協議会がまとめる。
 - ・事業の募集に先立ち、各地域協議会は、地域で抱える課題に応じて、どのような事業を実現すべきかを明らかにするため、地域の目指すべき姿、地域で課題となっていることなどを議論して採択方針としてまとめる。
 - ・採択方針は、地域の将来像や、優先的に採択する事業のほか、必要に応じて補助率や補助金額の上限・下限、審査の配点などを含めて決定する。

（２）事業提案書の受付

- 事業提案書は、事業の提案者が事業を行う区域の総合事務所又はまちづくりセンターに持参する（郵送での応募は受け付けずに、直接、面談の上内容を確認する。）。
- 審査を円滑に進めるため、土地利用等に関し提案者以外の承諾が必要な事業については、関係者と事前に協議が行われているかどうかを受付で確認する。
- 提案書の作成等申請についての相談は各事務局が対応し、提案者をサポートする。

（３）提案事業の審査

- ヒアリングやプレゼンテーションの実施は、各地域協議会の判断に委ねる。
- 審査は次の視点を基に行うこととする。

視点	内容	審査の方法
ア) 基本審査	提案事業が「地域活動支援事業の目的と合致しているか」を確認するもの。 ※提案を受理した段階で確認が済んだと判断して審査項目に加えないなど、区の状況に応じて実施しなくてもよい。	適否を確認
イ) 地域自治区の採択方針	地域自治区ごとに設定する ※地域の課題解決のために、どのようなテーマの提案事業を実施すべきかを明らかにするもの。	適否を確認

う) 共通審査 ※具体的な項目は 下記のとおり	全ての地域自治区の審査で共通するもの ※全ての地域自治区で共通の視点に立ち、提案された 事業を審査する上で必要最小限の基準。 ※配点は自由。 ※必ずしも点数を付けなくともよい。	項目ごとに配 点し、採点
-----------------------------------	--	-----------------

<共通審査の項目と視点>

審査項目	審査の視点
①公益性	<ul style="list-style-type: none"> ・提案事業の成果が広く地域に還元されるものか。 ・補助金を充てて購入した物品や修繕した施設等が、長く地域で活用される見込みがあるか。 ・全市的な方向性と合致しているか。 ・提案者以外の市民や団体等に不利益を与えるものではないか。
②必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題解決や活力向上に効果が見込まれる取組であるか。 ・地域の実情や住民要望に対応したものか。 ・緊急性の高い提案事業であるか。 ・ほかの方法で代替できないものであるか。 ・補助金を充てる経費が、提案事業を実施する上で不可欠なものであり、その規模も必要な限度となっているか。
③実現性	<ul style="list-style-type: none"> ・目標（達成すべきこと）や事業内容が明確なものか。 ・関係者との合意形成や組織内部での実施態勢が整っているか。 ・資金調達の規模や時期に無理はないか。
④参加性	<ul style="list-style-type: none"> ・提案事業の実施に当たり、提案者に限らず多くの住民等の参加が期待できるものか。
⑤発展性	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい発想が感じられる取組や、先進的な取組であるか。 ・事業の終了後における自立性や発展性は期待できるか。 ・提案団体に、信頼性や将来性はあるか。

- その他、審査においては、次のとおり取り組むものとする。
 - ・必要に応じて、共通審査項目に加えて、各区独自の審査項目の追加も可能。
 - ・審査に必要な書類がある場合は、各区の判断により提出を求めることも可能。
 - ・地域協議会委員は公平・公正な視点で採択審査に当たることが前提であるため、地域協議会委員が事業提案者と関わりがある場合でも、当該委員が審査に加わることを一律制限することはしない。ただし、各地域協議会での検討の結果、いわゆる利害関係者を審査から外すことも可能。

(4) 事業の紹介・公表

- 当該事業の活用について、地域内の各種団体に広く周知するとともに、「まず、相談に来てもらうこと」をPRする。
- 提案事業や採択事業は、市民の皆さんにその内容を広くお知らせするため、報道機関に情報提供を行うほか、市のホームページなどで紹介する。
- また、採択事業の実施結果は、年度末に広く市民に公表する（広報や市ホームページでの周知、成果報告会の開催、情報提供等）。

町内会宛て事務文書の配布の見直しに関する協議について

《町内会宛て事務文書の配布の見直しについて》

- 市では、来年度から（令和 2 年 4 月から）、広報上越を含め、町内会宛て事務文書の配布回数を月 2 回から月 1 回に変更し、あわせて、町内会事務委託料を見直す方向で各地区町内会長協議会へ説明するとともに、意見等の聴収を行っている。

《各地区町内会長協議会から寄せられた意見等について》

- 「町内会宛て事務文書の種類が多く、特に全戸配布については町内会の負担感が大きい」「必ずしも全戸配布を要さないものは、広報上越やホームページ、班回覧といった発信方法の見直しを行い、町内会の負担を軽減してほしい」とする声が多かった。
- 特に「地域協議会だより」「社協だより」「イベントパンフレット」については、全戸配布から班回覧への変更を望む声が多かった。

《各地区地域協議会への協議のお願いについて》

- 市では、各地区町内会長協議会から寄せられた意見等を踏まえ、来年度から「地域協議会だより」を全戸配布から班回覧に変更をお願いしたいと考えており、発行する各地区地域協議会で配布方法や発行周期などについて協議を行っていただきたい。
- 各地区地域協議会において協議した結果、従来どおり全戸配布を希望する場合は、地区町内会長協議会と配布の協力について、協議を行っていただきたい。
※地域協議会と町内会長協議会の協議が整わない場合は、班回覧で配布することとなります。
- 上記のことについて、今年度末までに（令和 2 年 3 月までに）協議を完了していただきたい。

《参考》

- 全戸配布から班回覧へ見直す予定の文書については、別紙のとおり。

市内全戸配布文書の配布方法の見直し案について(平成30年度配布実績に基づく見直し案)

令和元年11月6日現在

資料3(別紙)

No.	配布便	発送日時			文書名	担当課	令和2年度の配布方法(案)	
		年	月	日			配布の有無	配布方法の見直し方針
1	5/1便	30	4	26	社協だより第153号	福祉課	○	班回覧に変更(協議中)
2	5/15便	30	5	10	平成30年度日赤活動資金のご協力をお願い	福祉課	○	班回覧に変更
3	7/15便	30	7	12	社協だより第154号	福祉課	○	班回覧に変更(協議中)
4		30	7	12	「上越まつり」行事予定表	観光交流推進課	○	班回覧に変更
5		30	7	12	上越市自主防災組織初動対応マニュアル	市民安全課	×	今後、配布予定なし
6	8/1便	30	7	30	「第93回謙信公祭」パンフレット	観光交流推進課	○	班回覧に変更
7	10/1便	30	9	27	社協だより第155号	福祉課	○	班回覧に変更(協議中)
8	1/15便	31	1	10	レルヒ祭 イベントガイドブックの配布	観光交流推進課	○	班回覧に変更
9	2/1便	31	1	30	平成31年度新潟県交通災害共済加入申込書・パンフレットの配布・とりまとめ	市民課	○	
10		31	1	30	灯の回廊パンフレットの全戸配布	観光交流推進課	○	班回覧に変更
11	3/1便	31	2	27	社協だより第156号	福祉課	○	班回覧に変更(協議中)
12		31	2	27	2019年度ごみ分別収集カレンダーの配布	生活環境課	○	
13	3/15便	31	3	13	「第94回高田城百万人観桜会」パンフレットの世帯配布	観光交流推進課	○	班回覧に変更
14		31	3	13	上越市第6次総合計画後期基本計画(概要版)	企画政策課	—	次回の配布方法については改めて協議を行う(令和2年度は配布予定なし)
15		31	3	13	第6次上越市行政改革推進計画の概要	行政改革推進課	—	次回の配布方法については改めて協議を行う(令和2年度は配布予定なし)
16		31	3	13	上越市公共交通とくらしのガイド	交通政策課	○	公共施設等で配布する方法に変更
17		31	3	13	第二次財政計画(改訂版)の概要	財政課	—	次回の配布方法については改めて協議を行う(令和2年度は配布予定なし)
18		31	3	13	景観情報紙	都市整備課	×	今後、配布予定なし
19	4/1便	31	3	28	じょうえつ健康づくりポイントのチラシ	健康づくり推進課	○	No.19とNo.20を一体で製本して配布する方法に変更
20		31	3	28	平成31年度上越市健康診査カレンダー	健康づくり推進課		
21	随時 (年間2回~4回)				「地域協議会だより」	自治・地域振興課 まちづくりセンター 各区総合事務所	○	班回覧に変更(協議中) ※11月6日に開催する地域協議会会長会議において、各地域協議会に対し「地域協議会だより」を全戸配布から班回覧へ変更する方向で協議を行っていただきたい旨を依頼する。全戸配布が必要な場合は地区町内会長協議会と協議を行っていただきたい旨も依頼する。
22	随時				「総合事務所だより」、「地区振興会だより」など、地区独自に作成している配布物	各区総合事務所	○	班回覧に変更(協議中) ※9月2日に開催された総合事務所長会議において、全戸配布を必ずしも要しないと考えられるものは班回覧に変更するなど、各関係団体を含め、対応を協議するよう要請した。
23	随時				イベントポスター(高田城百万人観桜会、上越まつり、蓮まつり、謙信公祭、灯の回廊など)	観光交流推進課	○	町内会から不要の申し出があった場合は、次回から送付しないこととしているが、そのことを再周知する。

地域の課題について

■ H31. 2. 25、27 五智地区・直江津地区町内会長との意見交換会から

課 題	主な意見
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> 一部の町内会を除き、地域全体として高齢化や少子化が進んでいる。 高齢化により要支援者が増加し、見守り活動等を行っているが、活動の担い手を確保するのが困難である。 孤独死の予防対策が必要。 町内会の役員や青年会の担い手がない。 民生委員のなり手がなく苦慮している。
空き家	<ul style="list-style-type: none"> 空き家が増えている。町内会では所有者をつきとめられないケースもある。 危険な空き家について、個人の財産なので町内会としては対策に苦慮している。 一人暮らしの高齢者が多く、施設に入ることによって空き家になるケースがある。 家屋の所有者と土地の所有者が異なる場合が多く、空き家の利用が難しい。
環 境	<ul style="list-style-type: none"> 道が狭く、雪捨て場に困る。 子どもの通学路の安全が問題。(除雪など) 沢水や土砂流出が問題。 雁木通りの通路の段差が危ない。 海水浴場について、来訪者による水上バイクの騒音やゴミの放置などのマナーに問題がある。 地元住民は家の近くの海に入りたくても、ロープが張られているため海に入れない。 関川河川敷は雑草が茂り危険であるとともにゴミの不法投棄がある。 鏡池をきれいにしたい。 府中八幡宮の池をきれいにしたい。 海浜公園に時計が無く不便である。
観 光	<ul style="list-style-type: none"> 五智地区はかつて観光客が多かったが、今は少なくなった。 佐渡が世界遺産に認定されれば、佐渡へ行く人が増え、直江津、五智にも人が来るのではないかと。 五智地区は歴史があり、十念寺、親鸞聖人上陸の地、五智国分寺などをもっとPRすべきである。 うみがたりが開館したが、海岸周辺に食堂や店舗が少ない。 国分寺の境内には有名な石碑があるので拓本をして大勢の人の目にふれるようにしたらどうか。

■ H31. 3. 19 第 14 回直江津区地域協議会自主的審議から（主な意見）

- 地域の少子高齢化は、空き家や孤独死の問題に関係してくるが、地域で対策を練るには難しい問題である。
- 直江津区の中でも子どもの多い地域もあれば、高齢化が進み空き家の多い地域もある。見守り活動等が大変だという話もあるが、コミュニティをしっかりとすることが大事である。
- 若い世代に住んでもらえるようにしていかないと、高齢化を止めることはできない。
- 60代はまだ働いている人が多い。いわゆる団塊の世代がもう少しコミュニティ活動に参加してくれれば、地域に活気が出るのではないかと。
- 小学校の統合については、各地域に昔からの文化や考え方があるので、難しい問題である。

■ R1. 7. 16 第 5 回直江津区地域協議会自主的審議から（主な意見）

- 空き家対策は、法律的な問題もあるので、地域協議会がどこまで介入できるのか。
- 空き家の問題や動物多頭飼育の問題は条例を作らなければ対策は難しい。
- 空き家を放置することなく、人が住めるように斡旋するなど組織的に取り組めないか。
- 空き家の問題は税制上の問題も出てくるので難しい。
- 空き家の問題など意見書を出すためには、その下準備としての土壌作りが必要である。
- 空き家とともに雁木の問題も大事であり、雁木の通路の段差を改善すべきである。
- 空き家が増えている状況で雁木整備について地域協議会が関わるのは困難である。
- 雁木整備はある程度の団体（辻から辻ごと）にまとまって協力しないと行えない。
- 人口減少を止めるために、若い世帯に町に入ってきてもらえるような方法を考えればよい。
- 高齢化を止めるのは難しいが、地域協議会でアイデアをどんどん出していい。
- 少子高齢化については、日本全国の問題であり地域協議会で解決できる問題ではない。
- 再度、意見交換会を行い、それから議論の方向性を出していったらどうか。
- 町内により課題が違うので、地域協議会として何ができるのかを見つけることが大事。
- 地域活動支援事業に応募している団体の人たちと意見交換して認識を深めたらどうか。
- 資料の文言は、町内会長の意見を羅列したものなので、何を協議すべきか精査すべき。
- 「直江津まちづくり構想」は、どのような方向に向かっているのか分からなくなってきた。
- 地域協議会は課題を地域の皆さんと共有し、行政との橋渡しをすることが役割である。

■ R1. 10. 15 第 9 回直江津区地域協議会自主的審議から（主な意見）

- 「環境」について
 - 子どもの通学路の除雪については各町内で努力して対応されている。
 - 通学路の安全対策については、各町内で行政に要望したり、注意喚起をしたり、できる対策を講じている。
 - 国府 2 丁目の道路に土砂が流出した件については、行政から対応してもらい改善された。

公立保育園の民間移管について

1 移管先事業者の募集開始について

(1) 募集期間

令和元年12月6日(金)から令和2年1月31日(金)まで

(2) 応募資格

次の①②などを全て満たす法人。

- ① 保育園を運営するために必要な経営基盤及び社会的信望を有し、社会福祉事業に熱意と識見を有する事業者で、上越市において引き続き3年以上事業を運営していること。(応募時点で保育園事業を運営していない法人も応募可能)
- ② 本市の保育行政を理解し、これに積極的に協力する事業者であること。

2 令和4年4月に民間移管を予定する園(4園)

園名	定員	入園児童数
つちはし保育園	200人	191人
春日保育園	236人	231人
なおえつ保育園	200人	184人
さんわ保育園	200人	162人

※定員及び入園児童数は
平成31年4月1日現在

3 現在の状況及び今後の予定

(1) 現在の状況

- 「上越市立保育園の民間移管に関する事業者選定委員会」の審議を経て、募集要項や審査基準を策定。
- 12月6日(金)に移管先事業者の募集を開始。(1月31日(金)締切)
- 募集開始については、12月15日号の広報上越に記事を掲載予定であるほか、本年4月に実施した意向調査に協力いただいた法人に対して文書でお知らせした。
- 民間移管対象4園の保護者に対して、現在の取組状況を12月末までに周知する予定。

(2) 今後の予定

年度	月	内容
令和元年度	1月	① 移管先事業者の募集締切
	2月 ～3月	② 選定委員会による審査・選定 ③ 移管先事業者の決定 ④ 関係者調整会議(保護者、事業者、市)の設置 ⑤ 移管先事業者の公表
令和2年度	通年	① 移管先事業者との引継に向けた協議(～令和3年度) ② 民営化対象園の保護者等への説明(～令和3年度)
令和3年度	通年	① 移管先事業者との合同・引継保育の実施(1年間)
令和4年度	4月	① 民営化(4月1日)
	12月	② 民営化後のアンケート調査の実施(保護者向け)